

動物用医薬品

指定医薬品

犬・副腎皮質機能亢進症治療剤



要指示医薬品

# トリロスタン錠 2.5mg・5mg・10mg 「あすか」

有効成分のトリロスタンは、副腎皮質ステロイドホルモン合成酵素の一つである $3\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenaseを阻害することにより、生体内の副腎皮質ホルモンの合成を抑制し、副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）に伴う諸症状を改善します。飲みやすい錠剤で、小型犬に対応した製剤設計です。また、フィルムコーティング錠で人への影響に配慮しています。

成分・分量

1錠中トリロスタン 2.5mg・5mg・10mg

効能・効果

犬の副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）に伴う諸症状の改善

用法・用量

本剤の投与は体重1.7kg以上の犬を対象とし、初期投与量（下記「初期投与量」参照）、減量、維持あるいは増量とも症状により適宜増減し（下記「初期投与終了以降」参照）、体重及び錠剤サイズに基づき、本剤の至適投与量を食餌と共に経口投与する。

## 1) 初期投与（投与開始後10～14日目まで）

初期投与量（2.2～6.7mg/kg）を1日1回、食餌と共に経口投与する。その際、各種錠剤サイズを組み合わせ、体重に基づき可能な限り低い投与量から開始する。

## 2) 初期投与終了以降

投与開始後10～14日目に、モニタリングとして生理学的検査、血液学的検査、血液生化学的検査及び臨床症状の観察を行うとともに、ACTH刺激試験\*）によりコルチゾールを測定する。その際、ACTH投与後のコルチゾールの値や臨床症状に基づいて、「投与量の増減基準」（表）を参考に、本剤の減量、維持あるいは増量を行い、至適投与量\*\*）を決定する。なお、至適投与量はモニタリングの結果を総合的に判断し、個体毎に適宜増減する。また、投与量の増減を行ってから10～14日目に経時的にモニタリングを行い、至適投与量に到達した後も約30日毎のモニタリングを行う。なお、コルチゾール及び臨床症状の改善がみられない場合は、1日の投与量を2回に分けて投与する方法（1日2回投与）で追加増量を行う。

## \*） ACTH刺激試験

①本剤の投与後4～6時間（できれば午前中）、試験前は安静、絶食、自由飲水とする。

②合成ACTH製剤の投与前の血液を採取する。

③合成ACTH製剤を0.25mg/頭の用量で静脈内（又は筋肉内）に投与する。ただし、5kg未満の小型犬では、0.125mg/頭とする。

④合成ACTH製剤の投与後1時間に血液を採取する。

⑤合成ACTH製剤の投与前及び投与後1時間の血液試料におけるコルチゾールを測定する。

## \*\*） 至適投与量の指標

ACTH刺激試験でのコルチゾールが $1.45\mu\text{g/dL}$ ～ $9.1\mu\text{g/dL}$ の範囲（基準値）、あるいは臨床症状の改善がみられた投与量。

## （表） 投与量の増減基準

ACTH投与後のコルチゾールと臨床症状	投与量の減量、維持、増量
<投与開始後2～4週まで>	
< $1.45\mu\text{g/dL}$	減量
$1.45\sim 9.1\mu\text{g/dL}$	維持
> $9.1\mu\text{g/dL}$	増量
<投与開始後4週以降>	
< $1.45\mu\text{g/dL}$	減量
$1.45\sim 5.4\mu\text{g/dL}$	維持
> $5.4\sim 9.1\mu\text{g/dL}$ 臨床症状の改善:あり	維持
臨床症状の改善:なし	増量
> $9.1\mu\text{g/dL}$	増量

使用上の注意

添付文書等を参照してください。

有効期間

3年（包装に表示の使用期限内に使用してください。）

貯法

遮光した気密容器で、室温で保存してください。

包装

トリロスタン錠2.5mg「あすか」:100錠（10錠×10）

トリロスタン錠 5mg「あすか」:100錠（10錠×10）

トリロスタン錠 10mg「あすか」:100錠（10錠×10）